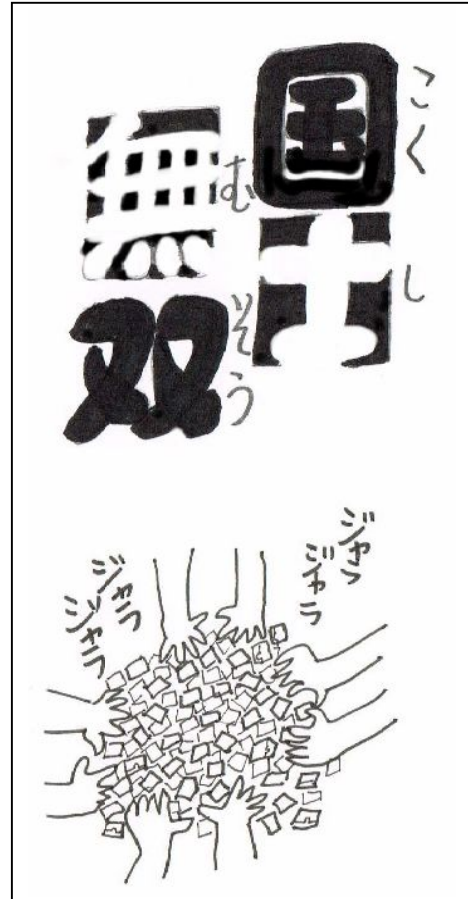
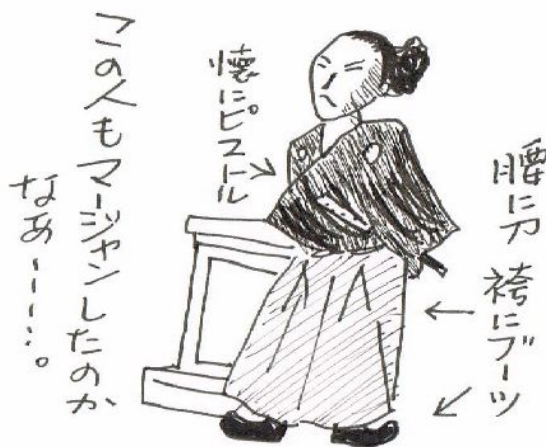


先週の回答



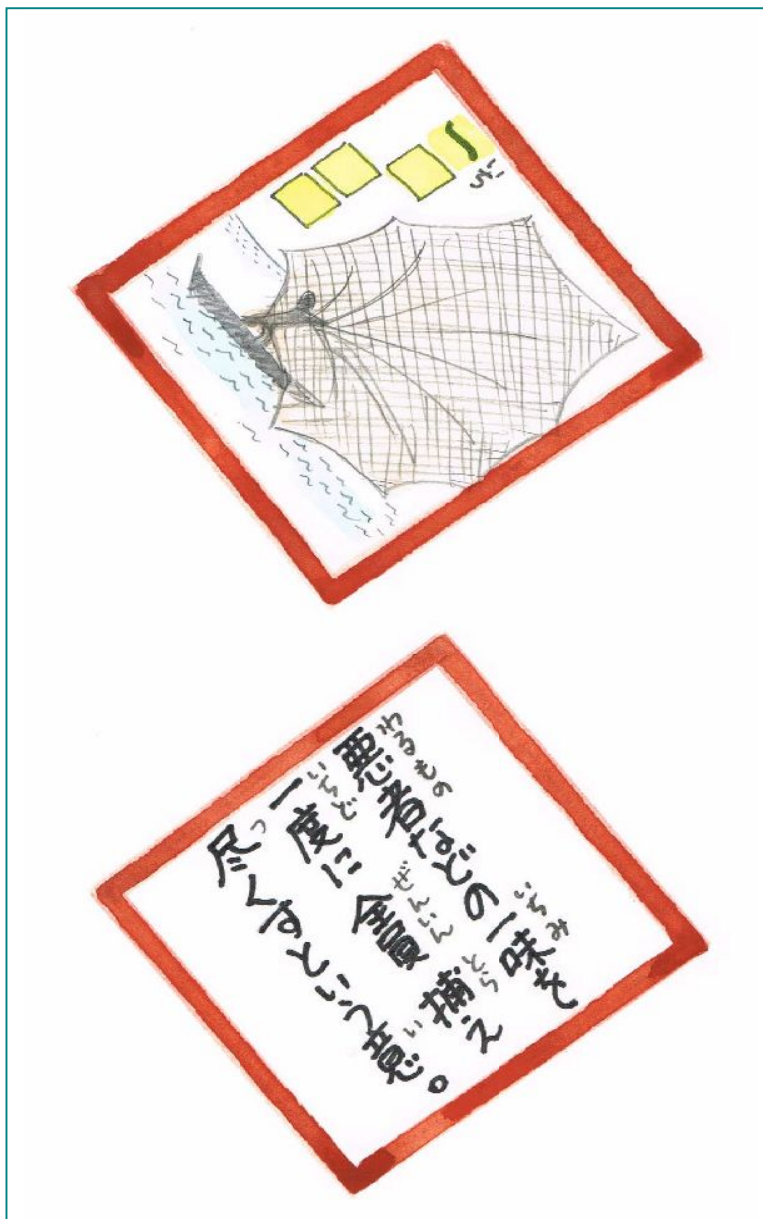
「田中、かーちゃんと呼ぶくしてるか」
 「はい、おかげさまで。それポン」
 「中村はどーだ？」
 「はい、おかげさまで。リーチ」
 「小林はかみさんと別れたのか？」
 「それ、ロンです。国士無双。役満です」
 「なにイー!!!」と課長の顔面硬直。
 マージャンをやらぬ方のためにご説明しますと、国士無双とは、マンズ、ピンズ、ソウズの「1」「9」を一枚ずつと、東南西北白發中の七種の字牌すべてを一枚ずつ揃えた手のことで、わかり易く言うと、そう簡単には出来ない並ぶものがない程すぐれた手。
 「何で国士無双っていうんですかねえー課長」
 「知るか！」振り込んだ課長は大不機嫌

「何でも、中国の古(いにしえ)の立派な武将をたたえたことばで、国士は一国のなかで特にすぐれた人物、無双は並ぶものがない、だから、マージャンにたとえて並ぶものがない程すぐれた手。それで役満なんだろう、ははは」と上がった中村は上機嫌。
 「すると日本で言えば、さしずめ坂本龍馬だな」と小林。
 「坂本龍馬って、あの幕末の土佐の志士？」
 「彼は二十代の若さで薩長連合、大政奉還を画策し、二百年近くつづいた徳川幕府を維新回転に導いたんだから、国士無双といえるかもな」
 「何しろ、袴にブーツ、拳銃を懐に幕末を駆けぬけたんだから、他に匹敵する者のない国士無双だよ」



「しかも奴は『世に生を得るは事を為すにあり』なんて名言も残してるし」
 「何だそれ？」
 「だから、人間はそれぞれ役割をもって生まれてきてんだから、何かしなくてはいかんと言ったんだよ」
 「それは稀に見る出来物。国士無双といえますねえー課長」
 「今夜は徹夜だぞ」と国士無双を振り込んでアタマにきた坂本課長が吠えた。

今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。